

(3) 2022年(令和4年)9月5日(月曜日)

第23回講演会を開催

レアメタル資源再生技術研究会

資源循環の最新事例

希少金属資源の産学官の関係者などをつくるレアメタル資源再生技術研究会(岐阜県各務原市、藤田豊久会長)は8月18日、第23回講演会を開催した。最先端の資源リサイクルの現状、将来展望<リサイクル>の現場感、将来テーマ、環境テーマ、社会貢献<を>をテーマに、国内リサイクル業



者など5人の発表者がオンライン形式で講演。当日は約110人が参加し、国内資源リサイクルの最新動向について、知見を深めた。最初の講演では、金城産業の金城正信社長が「小型家電リサイクルの現状、将来展望」として講演。同社が小型家電リサイクルに取り組み始めた経緯や処理体制を紹介するとともに、より高純度な資源回収の研究や、リサイクルの自動化が今

後の重要な取り組みになると指摘。同業他社だけでなく、他分野との協力連携がカギになるとも述べた。次に、平林金属の平林実社長が「家電リサイクルの現状、将来展望」とのテーマで、法制度の概要と自社での処理体制について説明した。同社では、プラントの設計から据え付けまで一貫して行える技術開発部を社内を設置し、精緻なりサイクルを実現している点を紹介した。

3番目に登壇したのは、VOLT Aの今井健太社長。「リチウムイオン電池の発火リスク・対応策 VOLT Aにおけるリサイクル」として、頻発する発火事故で関心が高いLiBのリサイクルについて解説した。続いて、ヴェオリア・ジャパンの本田大作上級副社長が、同グループが東海エリアで9月から開始予定のミックスプラリサイクル事業を紹介。最後に、マテックEV事業部の山中真部長が「自動車リサイクルの現状、将来展望」として講演。近年議論が進んだインセンティブ制度や他業種との連携による高度化などについて述べた。